

船舶事故調査報告書

平成31年3月20日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	乗揚
発生日時	平成30年8月18日 08時10分ごろ
発生場所	広島県広島市 ^{にの} 似島南西方沖 広島港 ^{やじた} 似島家下防波堤北灯台から真方位220° 1,310m付近 (概位 北緯34° 18.3′ 東経132° 25.3′)
事故の概要	プレジャーボート ^{しゅうぞう} 修三号は、北北東進中、潜堤に乗り揚げた。
事故調査の経過	平成30年8月30日、主管調査官（広島事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報	
船種船名、総トン数	プレジャーボート 修三号、5トン未満（長さ6.32m）
船舶番号、船舶所有者等	235-37676 広島、個人所有
乗組員等に関する情報	船長、二級小型
負傷者	なし
損傷	推進器翼に欠損、船底外板に擦過傷
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北北東、風力 3、視界 良好 海象：海上 穏やか、潮汐 低潮時
事故の経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、同乗者1人を乗せ、広島県広島港第1区のマリーナを出航し、似島南西方沖で漂泊しながら釣りを行っていた。</p> <p>本船は、釣りを終え、マリーナへ帰航することとして発進し、主機を半速力前進として北北東進中、似島南西方沖の潜堤に乗り上げて擦過し、主機が停止して漂流を始め、似島南西岸に再び乗り揚げた。</p> <p>船長は、本船にGPSプロッターが搭載されていたものの、平成30年6月に操縦免許を取得後、短時間の航行経験が約5回であったので、同プロッターの操作方法を熟知していなかった。</p> <p>船長は、近くに危険な浅所がないと思い、GPSプロッターを使用して船位の確認を行っていなかったため、船首方の潜堤に気付かなかったと本事故後に思った。</p> <p>船長は、潜堤が存在していることを知らなかった。</p> <p>海図W1112A（広島港東部）には、潜堤が存在する旨が記載されている。</p>
分析	本船は、似島南西方沖で釣りを終えて北北東進中、船長が近くに潜堤が存在することを知らずに船首方の潜堤に向かって航行したことから、潜堤に乗り揚げたものと考えられる。
原因	本事故は、本船が、似島南西方沖で釣りを終えて北北東進中、船長が近くに潜堤が存在することを知らずに船首方の潜堤に向かって航行したため、潜堤に乗り揚げたものと考えられる。

再発防止策	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事前に海図等で航行予定海域の水路調査を行うとともに、航行中は、GPSプロッターを使用して水中障害物の有無を確認すること。 ・ 航海計器の取扱いに習熟しておくこと。
-------	--